

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 18 日現在

機関番号：32662

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770043

研究課題名(和文)近衛秀麿研究 作品・資料目録データベース作成と資料の分析を通して

研究課題名(英文)Studies on Hidemaro Konoye &#8211; Analyzing and Cataloguing His Works and Collection.

研究代表者

三枝 まり (Saegusa, Mari)

桐朋学園大学・音楽学部・特別研究員

研究者番号：10584211

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：近衛秀麿は、日本のオーケストラ史におけるパイオニア的存在で、新交響楽団(今日のNHK交響楽団)を創設し、わが国の西洋音楽の黎明期に、指揮者、作曲家、編曲家として日本の交響楽の普及、発展の基礎を確立した音楽家と位置付けられる。本研究では、これまで未整理のまま保管されてきた近衛家所蔵の近衛秀麿関連資料について、(1)所蔵資料の調査、(2)破損の激しい資料の補修・整備、(3)資料のデジタル化、(4)近衛秀麿作曲・編曲資料目録の作成、(5)主要作品の分析、評価を行い、近衛秀麿の歴史的な意義の考察の土台を提供した。本研究を通して、音楽に対する取り組みの姿勢および彼の音楽観を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：Hidemaro Konoye is a pioneering figure in the history of western orchestras in Japan. He founded the New Symphony Orchestra (the forerunner of the NHK Symphony Orchestra) and made major contributions to bringing western music closer to home as a conductor, composer and arranger. Many of his archival materials have been left unexamined by the Konoye Family. My studies have focused on (1) Researching the materials (2) Repairing and restoring badly damaged materials (3) Digitilizing the collection (4) Archiving Hidemaro Konoye's compositions and arrangements (5) Analyzing his major works as part of efforts to provide insights into Konoye's significance, shedding light into Konoye's musical thoughts and perspective.

研究分野：近代日本音楽史

キーワード：西洋音楽受容 近衛秀麿 近代日本史 オーケストラ アーカイヴ 日本音楽 西洋音楽

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の契機

近衛秀麿は、昭和2年に新交響楽団（今日のNHK交響楽団）を設立し、わが国の交響楽運動の成立と発展に大きく貢献した音楽家であり、その全体像の検証が待たれる。しかし、学術的な研究が立ち後れており、本格的な資料目録も存在してこなかった。

2013年に、近衛秀麿が西洋音楽をどのように受容し、日本の楽壇にどのように普及させようとしていたのか明らかにすべく研究を開始したところ、近衛家に膨大な量の資料が所蔵されていることが判明した。これらの資料は未整理のまま保管されていた。さらに、一部は火災に遭っており、焼けかけたあと水がかかけられ、それが乾いた状態で保管されているために、劣化を防ぐ処置を至急行う必要があった。近衛の音楽活動の全体像を把握するための学術的資料的基盤の整備が急務であった。

(2) 先行研究の状況

日本の作曲家の側から洋楽受容を取り上げる研究は近年推進されてきた。《赤とんぼ》や《からたちの花》で知られる山田耕筰

（1886-1965）については、後藤暢子『山田耕筰 作るのではなく生む』（2014年）で生涯と創作活動が明らかになり、《海ゆかば》や交声曲『海道東征』で知られる信時潔

（1887-1965）については、信時裕子が全作品を網羅的に調査した作品表を作成し、資料の整理、調査研究も進められている。しかし、演奏実践において指揮者が作品をどのように解釈し、それが今日に至る音楽文化にどのように貢献しているのかもその詳細は未だ明らかでない部分が多い。特に、近衛秀麿（1898-1973）については、これまで資料の有無および所在、全貌が明らかになることはなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近衛秀麿が作曲・編曲した全作品に関する近衛秀麿作曲・編曲資料目録を作成し、今後の近衛秀麿研究の礎とするとともに、それらを総合的に分析・考察することによって、近代日本音楽史における近衛秀麿の音楽活動の功績を明らかにすることである。

3. 研究の方法

近衛家所蔵の近衛秀麿資料について、次の手順で研究を行った。

(1) 所蔵資料の調査。

複数の遺族宅へ分散して保管されてきた資料の調査を実施した。

(2) 資料の補修。

これまですべての資料について特段の保全措置は施されていなかった。特に戦前の資料、火事に遭った資料は、内容を確認するだけで破損する状況にあった。

(3) 資料のデジタル画像化。

資料の破損を防ぎ、大きいサイズの資料に対応するために、オーバーヘッド式のスキャナを導入してデジタル画像化を実施した。

(4) 近衛秀麿作曲・編曲作品目録の作成。

資料を整理し、1点1点現物と内容を照合しながら、目録を作成した。

(5) 主要作品の分析と評価。

4. 研究成果

(1) 所蔵資料の調査。

近衛家所蔵資料の調査。資料の全体像の把握が可能となった。また、所蔵資料の調査の結果、新たにこれまで知られていなかったスコアやパート譜、1920年代のアルバムや写真、欧米での活動に関するスクラップブック、日記を発見することができた。段ボール数箱分に及ぶかなりまとまった資料である。

(2) 調査対象資料の中には、経年劣化したもの、火災に遭ったものなどがあり、ペー

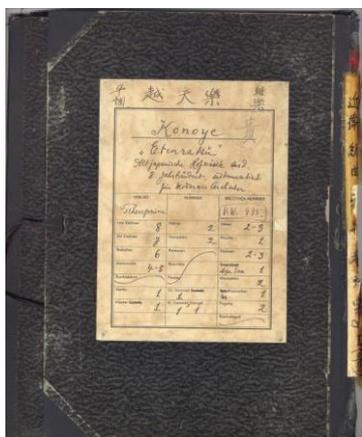
ジが脱落していたり、一部が破れてしまったり、損傷が激しいものが約 100 点含まれる。このうち、本申請では特に緊急性、研究上の重要性が高く、修復によって利用可能となると判断される 13 点について、修復・補強を行い、調査によるさらなる劣化を防止する措置を取った（図 1 参照）

(3) 近衛秀麿に関する重要な資料、近衛秀麿自筆譜について 300 点のデジタル画像化（一部表紙のみ、合計約 600 コマ）を実施した。

(4) 資料の整理が完了した作曲作品資料 50 点、編曲作品資料 446 点について、それぞれ作曲者名、曲名、出版事項、形態、(シリーズ名)、特記事項、資料番号を記した目録を作成した。

(5) いわゆる「近衛版」とはどのような特徴があるのかについて、①職業的オーケストラでの演奏を想定した芸術的要求に基づく編曲、②交響曲普及あるいは啓蒙活動に用いる実用的編曲、③歌曲・室内楽曲などから管弦楽曲への編曲に分類し、分析した。

資料の整理にはまだ多くの時間が必要であり、資料の補修および保管、資料の公開に向けて、調査・研究を継続して行う必要がある。



(図 1: 本研究で修復した近衛秀麿編曲《越天楽》パート譜。近衛は 1930~1940 年代にこの楽譜を用いて欧米のオーケストラ

を指揮しており、当時の演奏者の署名や演奏日時の記録等が書き残されている。)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

[学会発表] (計 4 件)

① 三枝まり、戦前における日本音楽コンクール作曲部門の歴史とその役割、日本音楽学会、2014 年 11 月 8 日、九州大学(福岡県・福岡市)

② 三枝まり、柴田南雄と橋本國彦の声楽曲—前衛あるいは伝統、柴田南雄を読む—柴田南雄(1916-1996)生誕 100 年プレ企画、2015 年 9 月 22 日、西早稲田パークタワー(東京都・新宿区)

③ 三枝まり、近衛秀麿の足跡—はじめてベルリン・フィルを指揮した日本人、2016 年度桐朋学園大学音楽学部公開講座、2016 年 10 月 20 日、桐朋学園大学(東京都・調布市)

④ Mari Saegusa, "The Orchestration of Gagaku Music by Hidemaro Konoye and His Musical Perspective", International Musicological Society, 20th Quinquennial Congress, 19 March 2017 Tokyo University of the Arts (Tokyo, Tiato-ku)

[図書] (計 4 件)

① 藤田由之、檜崎洋子、三枝まり、近藤滋郎、音楽之友社、音楽家 近衛秀麿の遺産、2014、43-105、179-204、附録 4-7、附録 38-39、附録 42、附録 43

② Kazue Sekine. Translated by Mariko Anno, Mari Saegusa, and Fumiko Konoe, Tokyo University of Arts, Szymon Goldberg Collection Catalog, 2015, 1-266

③ 戸ノ下達也、三枝まり他、青弓社、戦後

の音楽文化、2016、101-103、140-142、
185-188

- ④ 三枝まり、発行者：三枝まり、近衛秀磨
研究—作品・資料目録データベース作成
と資料の分析を通して—（平成 26～28
年度科学研究費補助金（若手研究(B)研
究成果報告書）、2017、131



(図 2：「近衛秀磨作曲・編曲資料目録」)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三枝 まり (SAEGUSA, Mari)

桐朋学園大学・音楽学部・特別研究員

研究者番号：10584211

(4) 研究協力者

近衛 一 (Konoye, Hajime)

近衛 文子 (Konoye, Fumiko)

近衛 大 (Konoye, Dai)

水谷川 忠俊 (Miyagawa, Tadatoshi)

水谷川 優子 (Miyagawa, Yuko)

片山 杜秀 (Katayama, Morihide)

関根 和江 (Sekine, Kazue)

檜崎 洋子 (Narazaki, Yoko)

西原 稔 (Nishihara, Minoru)

藤田 由之 (Fujita, Yoshiyuki)